

島原市高齢者等見守りネットワーク協議会(長崎県島原市)

(構成：島原市、(一社)島原市医師会、ネットワーク委員25団体
連携協力3団体、協定締結事業者34者)

《活動主体の概要》(平成27年4月1日現在)

総人口：46,945人

高齢者数：14,765人

世帯数：19,125世帯

産業構造：産業分類別の人口は、第1次産業では農業、第2次産業では建設業及び製造業が、第3次産業では卸売・小売・飲食業及びサービス業が多い。

地理的構造：長崎県の南東部にある島原半島の東端に位置し、中央部の眉山を中心として東側の有明海へ伸びる傾斜地となっている。

ジオパーク：島原半島ジオパークが2009年、国内初の世界ジオパークに認定。

島原守護神：島原創生元年(2015年)に再び故郷に舞い降りた救世主「しまばらん」が活躍中。



島原市の見守りネットワーク



活動のきっかけ

高齢化の進展に伴い、本市では3人に1人が高齢者という現状にあり、高齢者のみの世帯も年々増え続けています。また、高齢者の孤立死、詐欺被害の発生など高齢者を取り巻く現状はますます厳しさを増していることから、地域において日常生活や仕事の中で、あいさつなどを通じてさりげなく高齢者に接し、見守っていくためのネットワークづくりを進める必要性を感じていました。

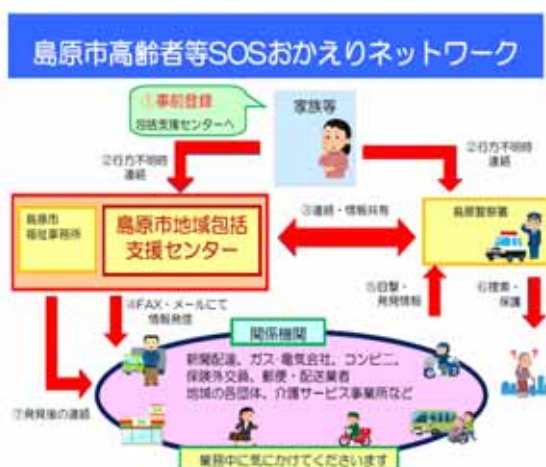
このような背景から、平成19年度に組織を立ち上げていた「島原市高齢者虐待防止ネットワーク会議」について、虐待に限らず高齢者等に関する異変にも対応する組織へと拡大し、行政や地域が一体となって高齢者等の見守りを実施し、高齢者等が安心して生活できる地域社会づくりを推進するために、「島原市高齢者等見守りネットワーク協議会」として設立(平成23年11月)しました。

活動方法

平常の業務中に高齢者等の事故又は異常を発見した際、市や島原市地域包括支援センターへ通報することによって、早期発見及び早期対応に向けた連携体制を構築するために、島原市と島原市地域包括支援センターの母体である(一社)島原市医師会、民間事業者の3者間で協定を締結しています。

また、認知症について理解を深めるため、高齢者等見守りネットワーク講座を地区ごとに開催し、認知症について学び、地域で支えられるように努力しています。併せて、認知症サポーター養成も行っています。

この他、認知症高齢者とその家族への支援及び行方不明高齢者の早期発見・保護に努め、住み慣れた地域で安心した生活を確保できることを目的とした「島原市高齢者等SOSおかえりネットワーク」も構築しています。



工夫点

連携協力・協定事業者、ネットワーク委員が一堂に会する「全体会議及び連携協力・協定事業所連絡会」を年2回開催しており、見守りに関する情報の収集や交換、他機関との連携構築、実施上の諸問題についての協議など、高齢者の方が住み慣れた地域で安心安全な暮らしを確保することができるよう、行政と地域、民間事業者相互の円滑なコミュニケーションを図っています。

成果

高齢者等見守りネットワーク協議会の趣旨・活動に賛同していただいた民間事業者と順次協定を締結しており、現在の協定締結事業者は34事業者と拡大傾向にあります。また、行政機関、一部事務組合など3団体と連携協力を行っています。

さまざまな業種の事業者との協定締結により、見守り体制の強化・充実が図られつつあり、今後もさらに組織の拡大・強化に努めていきたいと考えています。

課題

今後の組織の拡大に向けて、高齢者等見守りネットワーク協議会の取り組み自体の周知を図ることや、本協議会への参加について積極的に呼びかけなどを行っていく必要性を感じています。

また、特に、将来を見据え若年層に対しても浸透を図るため、見守りネットワーク講座や認知症サポーター講座の開催など裾野を広げていく取り組みも並行して行いながら、地域全体で見守りを行う体制づくりを充実させていく必要があると考えています。

代表者、事業者等の声

見守り活動については、日頃の業務においても心掛け取り組んでいます。この協議会への参加について声をかけていただき、また、全体会議に出席する機会を得て、改めて本協議会の活動内容を知り、見守り活動について考え、他の事業者の取り組みなど参考になったこと、情報交換もできて有意義だったとの声がありました。

中には、プライバシーに係ることで、どこまで踏み込んでよいのか、また、個人情報の取り扱いなど、活動において苦慮している点なども伺っています。